

問題三次の古文を読んで、後の一〜五の問いに答えなさい。

芝三島町に菓子あきなを商しんふ新右衛門しんえもんといへるは、小欲しちやく至直にして、日ごとに買あふ品の値あたいをあらそふ事なく、売うる人の言ことふままにまかせてもとめければ、家内の者いぶかりて、「商人はいづれも同じ事にて、その値の高下をあらそふならひなるに、いかなればかく言ことふままにはしたまふぞ」と言ことふを聞ききて、かれらは日ごとに重おもきを荷になひて、朝はとく出で、夕べには遅く帰かへる。ことに暑寒の折からはそのくるしみ言ことふべくもあらじ。おのれらは年中店に居ゐる風雨うれの憂うれへもなく家業を営いむはありがたき事ならずや。たとひ人にもほ施ほす事はなしがたくとも、せめてはその値をあらそはずしてもとめなば、少しはかれらが助けともならむかと言ことひける。後々は新右衛門が情ある事を知りて、売うる者も値ひを低ひくして持ち来たりしとなむ。

(大田南畝『仮名世説』による)

(注) 小欲至直…欲が少なく、とても正直なこと ならひ…習慣・しきたり

いかなれば…どうして かく…このように

したまふ…なさる とく…早く

言ことふべくもあらじ…言ことうことができないだろう

一 文章中の——線部Aの「買かふ」、——線部Bの「いづれ」、——線部Cの「なむ」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書け。

二 文章中の——線部1に「かく言ことふままにはしたまふ」とあるが、どのようにするということか。最も適切なものを次のア〜エから一つ選び、その記号を書け。

ア 「家内の者」が言ことうとおりに、とても安く品物を買かうこと。

イ 「家内の者」が言ことうとおりの方法で、商売を広げること。

ウ 「売うる人」が言ことうとおりに、彼らの生活を援助すること。

エ 「売うる人」が言ことうとおりの値段で、彼らの品物を買かうこと。

三 文章中の——線部2の「聞き」、——線部4の「知り」の主語を次のア〜エからそれぞれ一つ選び、その記号を書け。

ア 新右衛門    イ 売うる者    ウ 家内の者    エ 作者

四 文章中の——線部3の「かれらは」で始まる会話はどこまでか。その部分の終わりの五字を抜き出して書け。ただし、句読点やその他の符号も字数に数えるものとする。

五 文章中の——線部5に「売うる者も値を低くして持ち来たりし」とあるが、その理由として最も適切なものを次のア〜エから一つ選び、その記号を書け。

ア 新右衛門が、品物の値段に関して家内の者に非難され続けている気の毒な人物だと知ったから。

イ 新右衛門が、自分たちだけが安楽な生活を送っていることを自慢する利己的な人物だと知ったから。

ウ 新右衛門が、外へ出て働く商人の苦勞を思いやることのできる温かい心を持つ人物だと知ったから。

エ 新右衛門が、すべての人を助けてやりたいと考えている愛情深くやさしい人物だと知ったから。

問題四 次の一～七の問いに答えなさい。

一次の①～⑥の——線部の漢字の読みがなをそれぞれ書け。

① 覆水盆に返らず。 ② この店は雰囲気がいよい。 ③ 委員を委嘱する。

④ 料理に卵を用いる。 ⑤ 緩やかな上り坂。 ⑥ 名残を惜しむ。

二次の①～⑥の——線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書け。

① 安全をホシヨウする。 ② 真理をツイキユウする。

③ フクザツな思いにかられる。 ④ タントウ直入に切り出す。

⑤ 全力で試合にノゾむ。 ⑥ 落とし物をヒロウ。

三次の行書で書かれた漢字を、楷書で書いたときの総画数を漢数字で書け。

## 紀

四次の①・②の文の——線部「つづさに」、「もどかしい」の意味を、後のア～エからそれぞれ一つずつ選び、その記号を書け。

① 姉は学校での出来事をつづさに語った。

ア 次々と イ 詳しく ウ 大まかに エ ゆっくりと

② 気持ちをうまく表現できなくてもどかしい。

ア おかしい イ うれしい ウ つらい エ じれったい

五次の文の——線部の「た」と、言葉のきまりや意味の上で同じ「た」を含む文を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

先のとがったえんぴつを使う。

ア 昨夜は国語の勉強をした。 イ 学校から帰ったところです。

ウ よく晴れた空に入道雲が浮かんでいる。 エ 明日は学校の運動会だったね。

六 次の文は、お客さんにお菓子をすすめるときに言った言葉である。——線部を、適切な敬語に直して書け。

どうぞお菓子を食べて下さい。

七 次の①・②の文が正しい表現になるように、それぞれ——線部を直して書け。

① わたしが吹奏楽部に入部した理由は、入学式で聴いた演奏に感動しました。

② この本を読んで感じたことは、友情の大切さを感じました。